

福島原発事故の原因について 田中市議の一般質問③

田中はじめ市議は9月10日の一般質問で、福島原発事故の原因について執行部の見解を質しました。

福島第一原子力発電所が炉心溶融事故に至った原因について、国会事故調査委員会は、福島第一原発1号機に津波が到達する2分前に地震によって異常をきたし、電源を喪失



田中 肇
市議会議員

津波が来る前に、すでに地震動によって原子炉内に異常が起こっていたとすれば、そのメカニズムを明らかにし、国内すべての原発について、予想される津波の高さに関係なく、対策をとる必要が生じます。一方、想定外の津波が原因とすれば、津波対策のみでよいとの結論に導かれやすくなります。

質問に対し、永田防災安全部長は、「国会事故調の指摘についての規制委員会による

検討で、非常用交流電源系統の機能喪失原因は津波と結論付けている。なお、津波波高計の位置が誤っていた件で、更田規制委員長は、今までの結論を覆すものでないと述べている。市としては、引き続き規制委員会の取り組みを注視していく。」と答弁しました。

東出雲公民館と支所の複合施設 教育委員会は合意の支援を 吉儀市議の質問③



吉儀 けい子
市議会議員

田中市議は、「波高計の位置の資料は、高い放射線のために未だ中に入れない場所があり、新潟県の検証委員会から指摘されて初めて位置のずれが判明した。このような状況で、津波が来る以前に地震で壊れていた可能性を否定する結論を出すことは理解できない。」と主張しました。

田中市議は、「波高計の位置の資料は、高い放射線のために未だ中に入れない場所があり、新潟県の検証委員会から指摘されて初めて位置のずれが判明した。このような状況で、津波が来る以前に地震で壊れていた可能性を否定する結論を出すことは理解できない。」と主張しました。

吉儀市議は「教育長も、紛糾したその場に出席し、「保健相談センター」は、そのまま使って不足する機能を支所エリアに建てるという案も出されたのであり、多様な意見を出し合い、町民が合意できるように支援すべきではないか」と質問しました。

清水伸夫教育長は「検討委員会の皆さんが慎重に出された結論であり、理解いただきたい」と「保健相談センターエリア」に固執しました。

吉儀市議は、東出雲町公民館と支所の複合施設建設を巡って、町民の中に溝ができた問題を取り上げました。

地域資源活かし、 中海地域の発展を 橋市議の代表質問③

橋祥朗市議は代表質問で、中海地域の課題について、市長に質問しました。

①4月から本格運航が開始された水陸両用飛行機の運航状況、②厳しい現状が伝えられる中海漁業の実態と対策、③中海の水質の状況、ハイビーズによる覆砂事業については、ハイビーズがヘドロ化するの

ではとの漁業者の心配の声を紹介し、効果と今後の取り組みを問い、合わせて本格的な水質改善意は森山・大海崎両堤防の開削が必要と主張。④上宇部尾でのスポーツ広場計

画は中止されており、観光や地域おこしなど、今後の中海地域の総合的な発展についてなど、見解を問いました。

松浦市長は、◆飛行機運航については、4月からこれまで、185名が搭乗、運航率は45%である。◆中海漁業の実態は5年前と比較して漁業

者3割減、漁獲高も4割減となっている。うなぎ、赤貝養殖などの支援や新規漁業者支援などで漁業振興に取り組む。◆水質は改善傾向にある。浅場造成や覆砂事業は水質改善や二枚貝の生育効果が確認されており、漁業関係者の理解を得ながら事業を進める。森山堤防の開削前後で、水質の大きな変化は見られない。長期的に水質の状況をみていく。◆中海地域は、景観や観光資源にめぐまれており、空港や港湾もあり、国際的な観光に期待がある。八束町での農業振興や特産品開発支援など行っており、水陸両用飛行機、中海レガッタ、中海マラソン、松江城マラソンの取り組みなど、今後も地域振興に取り組む、と答弁しました。



橋 祥朗
市議会議員

「あの日のオルガン」 上映によせて

竹内多寿子

9月21日、松江市総合福祉センターにおいて映画「あの日のオルガン」を上映しました。320名の皆さんが観に来て下さり、多くの感想を寄せて頂きました。

主演は、女優・戸田恵梨香と大原櫻子、脇を固める俳優は林家正蔵や橋爪功など。監督は、長年山田洋次監督との共同脚本、助監督を務めてきた平松恵美子です。

1944年の東京、若手保母たちが、園児を連れて集団疎開した真実を映画化したものです。2年前、映画製作のプロデューサーになって欲しいとの話を頂き、有志を募り映画会を計画しました。

疎開に反対していた親たちも、子どもだけでも生き延びて欲しいと保母たちに我が子を託すことを決意。疎開先の廃寺を掃除し、近所の農家からの食料提供は「穀つぶし」のように言われながらも、東京から持つ



てきたオルガンを奏で必死で保育する保母たち。1945年の東京大空襲で両親が亡くなる子どももいたのです。

戦争中、誰でも自分のこととで精いっぱい時代の、「疎開保育園」を実現させた力は、何であったのかを考える時、大先輩を誇りに思い、私達もそうありたいと思えました。